

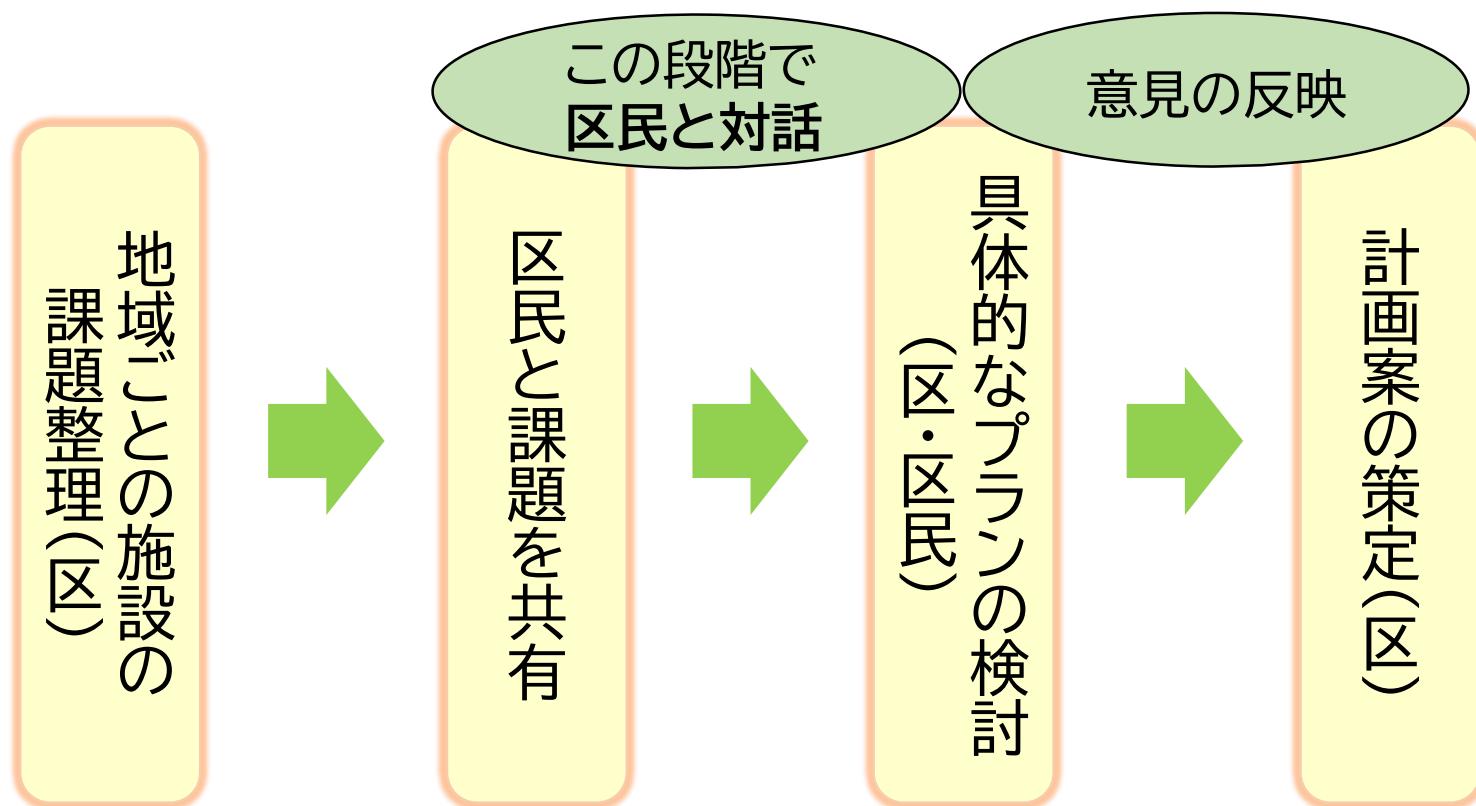
西宮中学校の改築と老朽化した 周辺施設の更新等に関する検討

検討まとめ

令和6年(2024年)11月

この取組に至った経緯

- 区では、区立施設の老朽化等の課題に対応するため、平成26年(2014年)に「杉並区区立施設再編整備計画」を策定し、取組を進めてきました。
- 一方で、これまでの取組の進め方においては、施設利用者や地域の皆さんなどの意見を十分に反映できていなかったことが大きな課題でした。
- そこで、今後は計画の検討段階から施設利用者や地域の実情を一番理解している地域の皆さんの意見を聴きながら、共に計画案をつくり上げていくこととしました。



■スケジュール

ワークショップのほか、地域意見交換会(オープンハウス形式)の実施や対象施設の近隣住民等を対象とした意見聴取(ポスティング)、施設利用者等に対する意見聴取を通じて、地域の皆さんとの対話を行い、皆さんの意見を踏まえた上で最終的に区が計画案を決定します。その後、12月にパブリックコメントを実施し、令和7年(2025年)1月に計画を策定する予定です。

●区民の皆さんとの取組

- ・ワークショップ
- ・施設利用者や近隣住民等からの意見聴取
- ・地域意見交換会(オープンハウス形式)

6年4月以降

6年11月

6年12月

7年1月

7年4月以降

施設整備
プランの検討

計画案
決定

パブリック
コメント

計画策定

取組実施

ワークショップ全体のスケジュール・テーマ等

	回	日程	テーマ
情報共有 土台作り	第1回	令和6年 (2024年) 4月20日(土)	ワークショップの目的、公共施設マネジメントの内容、対象施設について知ろう！
	第2回	令和6年 (2024年) 5月25日(土)	対象施設を取り巻く状況や建替え時に生じる課題について考えよう！
	第3回	令和6年 (2024年) 6月22日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 対象施設を取り巻く状況や建替え時の課題について考えよう！ 施設の配置において大切にしたいことを考えよう！
具体的な 取組案 (プラン) の検討	第4回	令和6年 (2024年) 7月13日(土)	各プランのコンセプトや内容を理解し、良いと思う点や改善が必要な点、解決策等について意見交換しよう！
	第5回	令和6年 (2024年) 9月7日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 第4回までの意見や地域意見交換会、施設利用者の意見等を踏まえて、ワークショッププランを整理しよう！ 全5回のワークショップを振り返って、感想等を共有しよう！

情報共有 土台づくり

情報共有・土台づくりの手法

ワークショップの前半(第3回まで)は、具体的なプランの検討に向けて必要な情報の共有(土台づくり)を、以下の手法を用いて行いました。

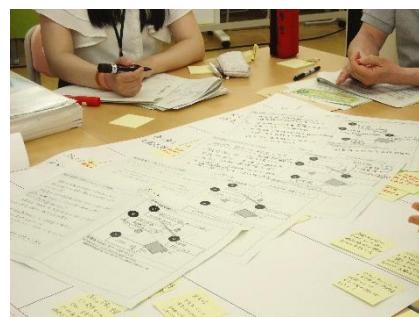
■区からの説明

施設マネジメントの必要性や各対象施設が目指す姿、課題等を説明しました。



■グループワーク

区からの説明を受けて、良いと思った点・疑問点などについてグループで共有するワークを行いました。他の班で出た意見は、各班で作成した模造紙を見て回ったり、各班の要旨を発表する等、全体での共有も行いました。グループワーク全体を通して、「グループワークで他の方の意見や質問を聞くうちに理解が進む部分があった」「限られた土地の中での建替えなので、この地域の特色をみんなで考えていきたい」等の意見がありました。



■施設見学

対象となっている施設を実際に見学に行き、区職員から施設の概要・目的などをお伝えしました。施設見学を通して「身近な地域にこのような施設があることを初めて知った」等の意見がありました。また、施設見学に行けなかった方へは、資料を用いて施設の概要・目的等を区からお伝えしました。



このワークショップの経緯と目的

■令和4～5年度(2022～2023年度)

○西宮中学校については、令和4年度(2022年度)に「**西宮中学校・宮前図書館改築検討懇談会**」を立ち上げ、宮前図書館との複合化などについて検討してきました。

○改築検討懇談会では、「中学校の敷地面積を考えると図書館との複合化は難しいのではないか」といったご意見を多く頂き、さまざまな視点から検討した結果、中学校及び図書館に限らず、周辺の区立施設を含む地域全体の施設整備等について検討を進めていく観点から、改めて検討することとしました。



■令和6年度(2024年度)

○ワークショップでは、

老朽化している西宮中学校とその周辺施設についてどのように建て替えなどを行っていくのか(建物配置)を中心に、

様々な立場の皆さんと共に考えるため、ワークショップを開催しました。

■主な対象施設

- 西宮中学校
- 宮前図書館・さざんかステップアップ教室「宮前教室」
- 大宮前保育園・ゆうゆう大宮前館



▲西宮中学校



▲宮前図書館



▲さざんかステップアップ教室「宮前教室」



▲ゆうゆう大宮前館



▲大宮前保育園

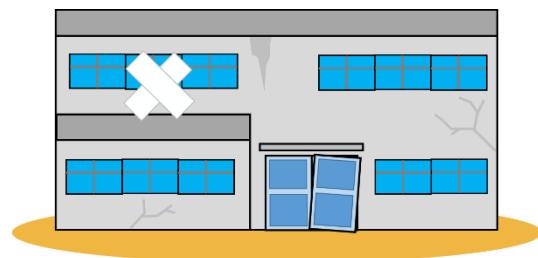
区立施設が抱える課題と検討に当たっての視点

■区立施設が抱える課題

①施設の老朽化

築50年以上の建物が区立施設全体で約3割を超えており、施設の老朽化が進んでいます。区立施設は今後まさに改築時期のピークを迎えます。

▶区立施設は区民共有の財産であるため、地域全体・区全体を俯瞰して今後のあり方を考える必要があります。



②区民ニーズの変化への対応

区立施設の多くが整備された高度経済成長期と現在では、大きく時代も変化しており、求められる施設や機能も変化しています。

▶現世代はもちろんのこと、将来世代のニーズや財政上の負担等も考慮する必要があります。

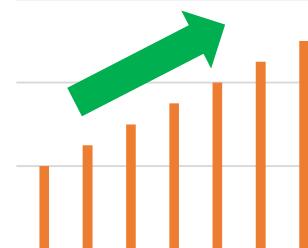


③限られた財源の中での施設整備

杉並区においても人口減少・少子化が見込まれます。それにより、働き世代が減少することで税収が減り、福祉や医療にかかるお金である社会保障関連経費が増加することが見込まれ、相対的に施設に使えるお金はこれまで以上に限られてきます。

▶将来的な財政状況を踏まえて、限られた資源・財源を最大限に有効活用していく必要があります。

社会保障関連経費



■全体最適・長期最適の視点

○公共施設は区民共有の財産であることから、地域全体・区全体を俯瞰して今後のあり方を考える必要があります。

○新たに施設を整備する場合は、現在の区民だけでなく、将来世代の区民も利用するものであることから、現世代はもちろんのこと、将来世代のニーズや財政上の負担等も考慮する必要があります。

○将来的な財政状況を踏まえると、不安定な部分も多く、厳しい状況が続くことも想定されることから、限られた資源・財源を最大限に有効活用していく視点が欠かせません。



“全体最適・長期最適”

の視点を持ちながら検討していく必要性を共有しました。

西宮中学校の概要

■教育目標

心豊かな人（徳）

自ら学ぶ人（知）

健康な人（体）

■西宮中学校の生徒数・学級数 （令和6年(2024年)4月時点）

生徒数	学級数
354	11



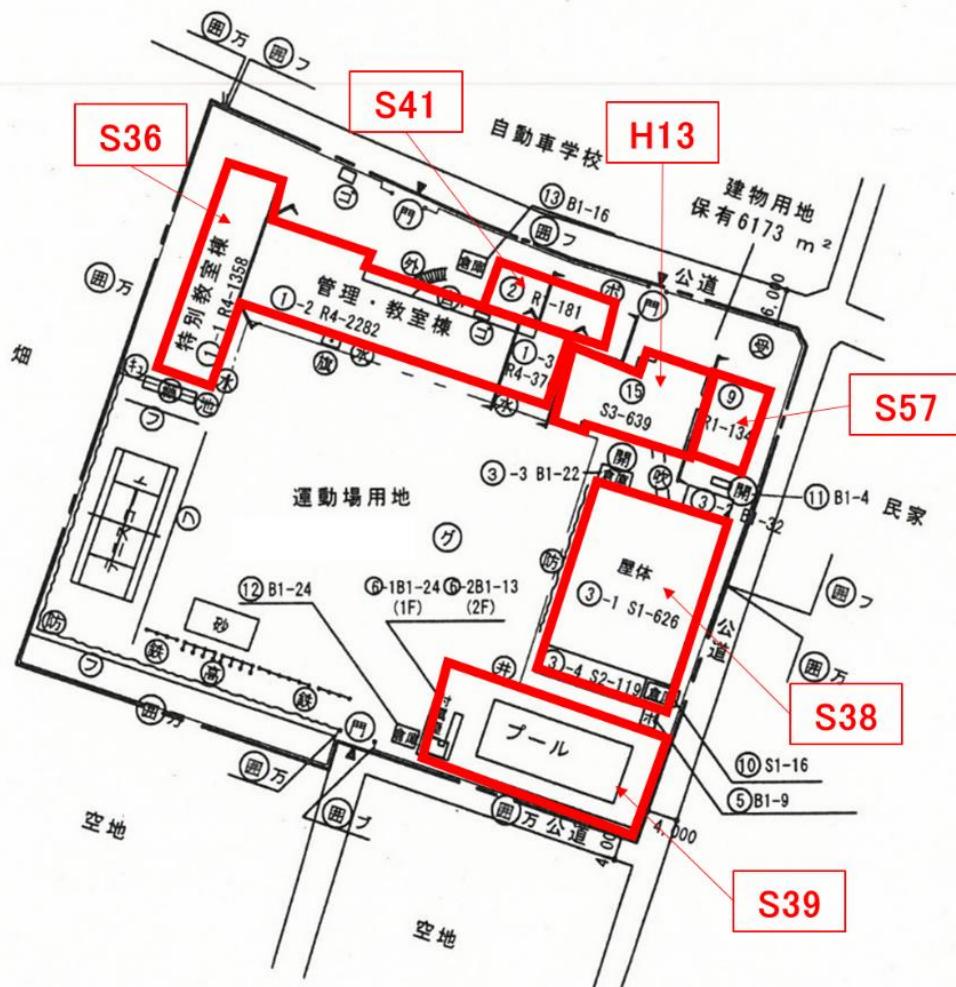
■西宮中学校の施設規模

敷地面積	校舎面積	運動場面積	体育館面積	プール
10,808㎡ (直近の測量結果 10,077㎡)	5,033㎡	4,635㎡(※)	843㎡	25m×10.2m

※建物用地以外の面積。授業や部活動等で使用できる校庭の広さは4,400㎡。

■西宮中学校 校舎の状況

- 昭和36年(1961年) 設立
(区立宮前中学校西分校が独立し
区立西宮中学校として設置される)
- 昭和38年(1963年) 体育館完成
- 昭和39年(1964年) プール完成
- 昭和41年(1966年) 給食室完成
- 昭和55年(1980年) テニスコート、
校庭フェンス等
工事完了
- 昭和57年(1982年) 家庭科室部分増築
- 平成12年(2000年) 校舎耐震補強工事
- 平成13年(2001年) 北東校舎改築
1階会議室・教育相談室
2階多目的室



※最も古い管理・教室等、特別教室棟で、築63年。

学校施設の目指すべき姿

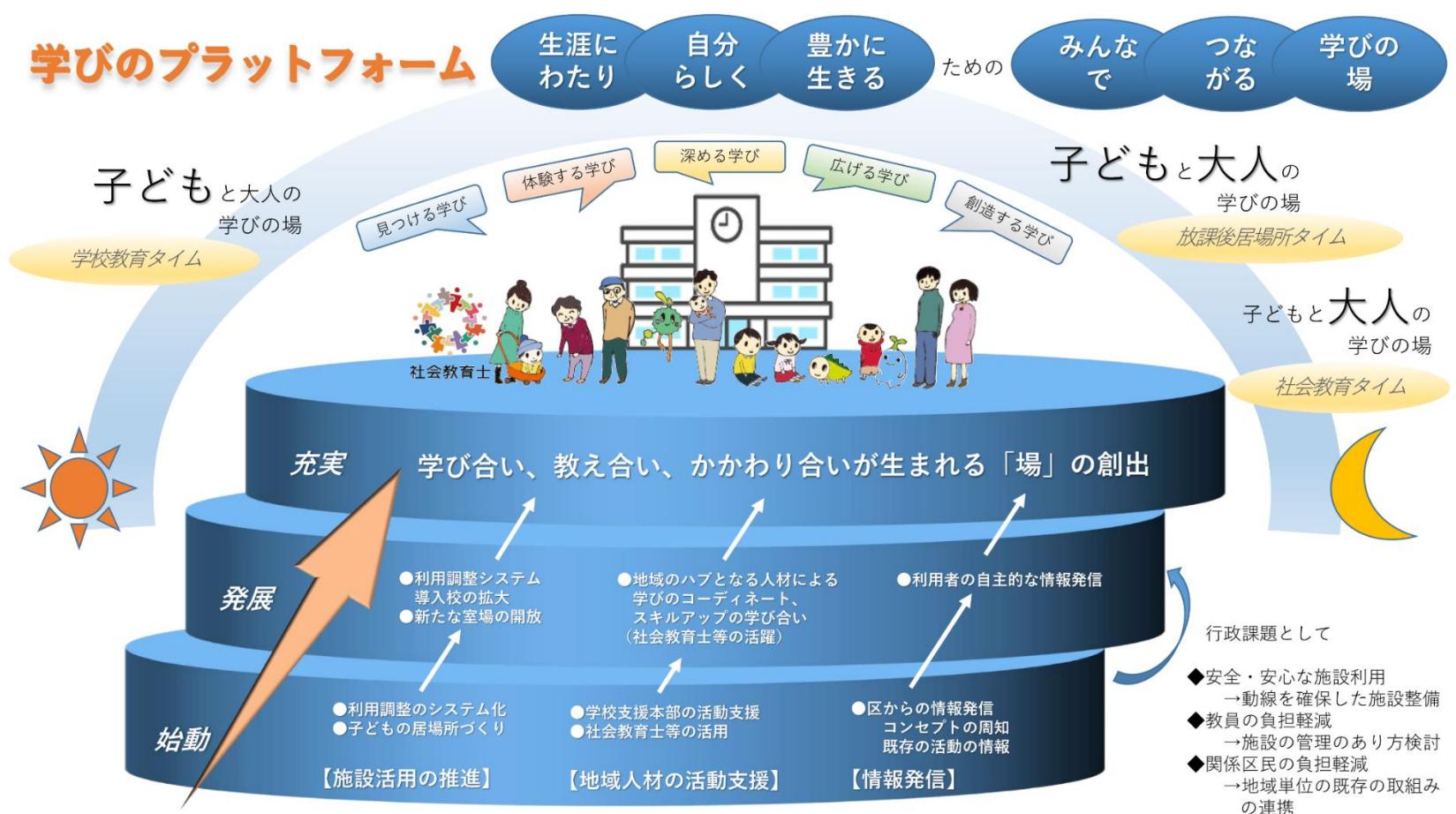
■杉並区教育ビジョン2022推進計画

1 基本的な考え方

「人生100年時代」を自分らしくいきいきと生きるためには、誰もが学び続けられ、必要に応じて学び直すことができる環境を、身近な地域に整える必要があります。そのためには、学校や図書館等の教育施設を、区民が生涯にわたって豊かに学ぶことができる施設とするとともに、人が交わりつながる基盤となる「**学びのプラットフォーム**」として整備することにより、学び合いと教え合いが広がる教育環境の整備・充実を図ります。

■学びのプラットフォーム

身近な学校を、放課後や休日など、学校教育以外の場面で子どもたちや地域のために活用したり、社会教育施設をこれまで以上に活用したりすることで、区民誰もが世代を超えて学び合い、教え合うことができる場を広げていこうとする区独自の考え方です。



■将来を見据えた教育環境の確保

「杉並区立学校施設整備計画」では、以下の目指すべき姿を目標とし、学校施設に求められている機能・性能を満たしていきます。

安全・安心で、快適に
過ごせる学習・生活
空間の整備

多様な教育に対応で
きる学習環境の整備

地域の拠点となる
開かれた学校づくり

将来転用可能な
柔軟性のある
施設づくり

環境に優しい
施設づくり

ワークショップ第3回までに、中学校については、以下のような意見を頂きました。

- 少人数、学年単位等、今求められている教育環境の充実が重要
- その意味では学校単独が良いが、その場合でも地域に開いていく仕組みが必要
- 学校の面積を十分に確保できるのであれば他施設と併設していく可能性もある
- 誰でも入れる施設だと防犯面に不安が残るため、動線を分けるなど、対策が必須

これらの意見から、学校の面積及びセキュリティーを十分に確保した上で、他施設との併設が考えられるかが、この地域の施設の再編を考える上で重要なポイントと捉えています。

■新たに建てる校舎の大きさ

西宮中学校の敷地は約10,100㎡、土地の指定容積率(敷地面積に対して建てられる建物の延べ面積の上限)は100%であるため、最大10,100㎡の建物を建てることができます。現状の建物の延床面積は約5,900㎡ですが、新たに建てる校舎は、学校施設整備計画に定める標準規模を基に、多目的室・少人数教室・給食室等の充実を図ると、約7,300～7,900㎡(中学校として必要と見込まれる規模)となり、総延床面積は増える予定です。

■授業や部活動等で使用できる校庭の広さ

校庭の面積については現状の4,400㎡と同等程度あるいは同等以上を確保することを前提とします。

〈校舎及び校庭の配置例〉



▲集会施設と併設(北校舎)



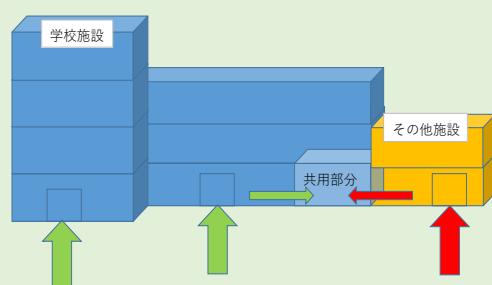
▲単独(北校舎)

※左記の配置については想定される一例であり、実際の配置は今後検討していきます。

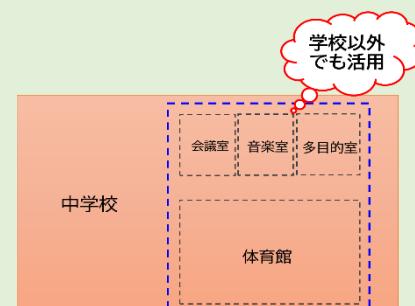
■開かれた学校づくり

中学校の敷地内に他施設を建てる場合は、中学校と他施設が平面的に接する「併設型」が基本となります。それぞれの出入り口は分けて、独立して運営できるようにするため、セキュリティーの確保は十分に可能です。一方で、双方の一部スペースを他方が使えるようにすることで施設の有効活用、整備費用の削減も見込めます。

併設以外に地域に学校を開いていく仕組みとしては、多機能化があります。学校開放事業や地域の活動での使用など、教育活動に支障のない範囲において、学校の諸室等を活用できるようにしていくものです。



▲併設のイメージ



▲多機能化のイメージ

宮前図書館の概要

■開設年月日

昭和47年(1972年)11月1日※以下数値は令和5年(2023年)3月現在

■蔵書数

120,488冊

個人貸出 貸出人数:106,596人 貸出冊数:388,928冊

団体貸出 登録団体数:102団体 貸出冊数: 16,759冊

■敷地面積

1,691.49㎡ (許容容積率100% ※建築当時は容積率指定なし)

■既存延床面積

1,974.02㎡

※改築の際は、現行法では敷地面積に対して許容容積率が100%のため、延床面積1,691㎡以上の建物を建てることはできません。

■建物概要

地下1階・地上3階、鉄筋コンクリート造、築51年、エレベータ未設置

■運営形態

指定管理者

■宮前図書館の特徴

- ・中2階に踊り場を利用したスペースがあり、資料の展示や座席を設置
- ・3階に2つの読書室を設置し、図書館全館の座席数は一般152席、児童22席
- ・さまざまな世代向けの講演会等のイベント事業は、3階の講座室で開催
- ・お話し会は、1階のおはなしの部屋で開催



▲外観



▲内観(提供:宮前図書館運営事業者)

さざんかステップアップ教室「宮前教室」の概要

■さざんかステップアップ教室とは

- 不登校またはその傾向にある児童生徒を対象に、教室での集団生活への適応、基礎学力の補充、体験的な活動などの教育支援を行い、まずは安定して通室できるような支援を行います。
- 通室が安定してきたら、教室の職員(指導員・心理士)と一緒に次のステップを考えていきます。学校復帰だけが目的ではなく、児童生徒がそれぞれに合った目標や進路を見つけることを目指しています。
- 各教室によって時間割りや活動内容に特色があり、通室頻度や通室時間は本人の状態や希望に合わせて決めることができます。遠足や社会見学、宿泊などの行事も行っています。

教室名	対象者	登録者数	設置場所	設置年月
宮前教室	小学校5・6年生、中学生	小:8人 中:37人	宮前5丁目5番27号 宮前図書館併設	平成27年9月 (2015年)
天沼教室	中学生	42人	本天沼3丁目10番20号 天沼中学校併設	平成5年11月 (1993年)
和田教室	中学生	31人	和田1丁目41番10号 3階 ゆうゆう和田館等併設	平成13年9月 (2001年)
荻窪教室	小学生	65人	天沼3丁目15番20号 3階 旧若杉小学校内	平成24年7月 (2012年)

■延床面積

350.63㎡

- ・教室(64㎡)2部屋、相談室(19㎡)2部屋、
- ・個別支援室(30㎡)2部屋、事務室(30㎡)、トイレ・倉庫等

■利用者

- ・登録児童・生徒数 45人(令和5年度(2023年度))
- ・1日当たりの通所者数 10人~15人程度
- ・対象地域 杉並区内全域



▲軽スポーツの実施



▲交流の場



▲小集団活動



▲個別学習

大宮前保育園の概要

■今後の区の保育園の方向性について

○杉並区では、平成30年度(2018年度)に、待機児童ゼロを実現しました。ただし、「待機児童」は、認可保育所・認可外保育所のいずれにも在籍していない児童を指すもので、平成30年(2018年)時点では希望する全員を認可保育所で受け入れることはできませんでした。

○そこで、認可外保育所の認可化移行による保育施設の整備等を行った結果、令和5年度(2023年度)には保育需要に応える必要な保育定員を確保できました。そのため、区立園においては当面の間、新規整備を行いません。また、私立園においても当面、数値目標を定めての新規整備は行いません。

○保育施設が充実した一方で、急増した私立園の保育の質の維持・向上のため、区立園が中心となって私立園との連携・研修等の支援に取り組んでいます。そのため、区立園の重要性が増していることから、当面の間、民営化や廃止を行わず27園を維持していく方針です。

■大宮前保育園が属する地域の保育需要

年度	定員	児童数	割合
令和3年度 (2021年度)	762人	701人	92.0%
令和4年度 (2022年度)	762人	703人	92.3%
令和5年度 (2023年度)	762人	686人	90.0%

■築年数

59年

■敷地面積

1,057.85㎡

■延床面積

331.02㎡

■園庭面積

505.47㎡

■定員数・在籍児童数

・定員数 :72人

・在籍児童数:68人

※令和6年(2024年)4月時点。

在籍児童数は3・4月が少なく、12・1月に多くなる傾向にあります。

■大宮前保育園の特色

○歳児室が1階にあるので、どのクラスの部屋からもすぐ園庭に出ることができます。

○公園が隣接しており、さらに少し足を延ばせば様々な公園があるなど、静かで自然豊かな環境に恵まれています。

ゆうゆう館とは

■利用対象者

杉並区にお住まいの60歳以上の方々

■施設数

26施設(令和6年(2024年)10月時点)
※昭和38年(1963年)に上荻窪敬老会館を開設して以降、各地域に3~6か所(合計32館)の敬老会館(現ゆうゆう館)を設置してきました。現在は、32館のうち、6館をコミュニティふらっとに機能継承しています。

■開館時間

午前9時~午後9時
(日曜日・祝日)午前9時~午後5時
(第3木曜日) 午後1時~午後9時

■利用方法

- ①個人利用:一般和室または談話室・談話コーナーで、テレビ、囲碁、将棋などを自由に利用可能です。お一人でもご利用になれます。
- ②団体利用:趣味やいきがいづくりなどの活動(※)に、洋室、和室、茶室、講座室、多目的室、ホールなどを利用できます。
※コーラス、カラオケ、体操、書道、囲碁、輪投げなど
- ③目的外使用:空いている部屋がある場合は、一般の方も使用できます(要事前予約/有料)。

■施設の特徴

- ・築40年以上の施設が16館あり、施設の老朽化が進んでいます。
- ・他施設(特に保育園)との併設が多くみられます(保育園との併設:12館)。

■利用人数の推移等(ゆうゆう館全体) ※協働事業参加者等を含む (利用人数)

令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
394,142人	184,956人	242,131人	263,188人	276,156人

(年齢別利用者割合(令和5年(2023年)度 ※ゆうゆう今川館を除く、協働事業参加者等を含む)

60歳未満	60代	70代	80代	90歳以上
3.9%	7.8%	40.8%	41.9%	5.6%

■高齢者の区立施設の利用に関するアンケート(令和5年(2023年)6月実施)

(対象)無作為抽出した60歳以上の区民1,400人

(回答)462人/1,400人(回答率:33%)

(設問)趣味や学習、運動等の活動をどこの区立施設で行っているか。

ゆうゆう館	区民集会所、区民会館	コミュニティふらっと	その他区立施設	区立施設を利用していない
16.5%	10.0%	3.1%	20.2%	50.1%

■実施事業(協働事業)

各ゆうゆう館の施設運営業務を担うNPO法人などの団体が、「いきがい学び」、「ふれあい交流」、「健康づくり」などに関する講座・催しを実施しています。

事業により参加費がかかります。一部を除き、高齢者に限らず参加できるので、多世代で楽しむことができます。

- ・協働事業例:スマホ講座、囲碁、卓球、ヨガ、コーラスなど

ゆうゆう大宮前館の概要

■築年数・延床面積・部屋数等

築年数	延床面積	洋室1	洋室2	洋室3	構造
59年	199.44㎡	57.9㎡	22㎡	23.7㎡	鉄筋コンクリート造 エレベーター未設置



▲洋室1



▲洋室2



▲洋室3

■活動団体数

25団体(令和6年度(2024年度)上半期)

■団体人数

254人(令和6年度(2024年度)上半期)

■利用者の傾向

- ・70代、80代の利用者が多い
(令和5年度(2023年度))
- ・団体利用の登録は周辺住民(※)が多い
(約65%)

60代	70代	80代	90代以上
11.4%	37.9%	45.8%	2.1%

※小数点第2位四捨五入

※施設から半径500m圏内の丁目にお住いの方

■稼働率(茶室等を除く)

(令和元年度(2019年度))

部屋名	施設全体	9~12時	13~17時	18~21時
洋室1	49%	82%	84%	26%
洋室2		58%	66%	3%
洋室3		54%	46%	1%

(参考)
ゆうゆう館全体稼働率
⇒約58%
(高齢者活動支援センター
は含まず)

(令和4年度(2022年度))

部屋名	施設全体	9~12時	13~17時	18~21時
洋室1	48%	69%	76%	17%
洋室2		65%	73%	1%
洋室3		63%	47%	1%

(参考)
ゆうゆう館全体稼働率
⇒約50%
(高齢者活動支援センター
は含まず)

■利用人数の推移(ゆうゆう大宮前館) ※協働事業参加者等を含む

令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
9,442人	5,155人	7,149人	7,617人	8,289人

「乳幼児親子を含む子どもから高齢者まで、誰もが身近な地域で気軽に利用でき、世代を超えて交流・つながりが生まれる新たな地域コミュニティ施設」

■コミュニティふらっと(標準規模)のイメージ

集会室などの貸室は、町会・自治会の活動や、文化や趣味等のグループ活動に利用できるほか、講座や多世代交流イベントへの参加を通じて、身近な地域における世代を超えた交流や、コミュニティづくりができます。

ラウンジは、予約なしに誰でも利用することができるスペースです。地域の方々のちょっとした打合せはもちろん、読書や勉強、飲食しながらおしゃべりなど、様々な利用ができます。

施設の規模に応じて、地域の発表会や多世代交流イベントなどに活用できるよう、集会室よりも広さのある多目的室を設置します。



ゆうゆう館を利用している団体の活動場所を確保することができるよう、一部の部屋・時間帯に高齢者団体優先枠を設け、一般利用者等とのタイムシェアをしていきます。

受付窓口では、高齢者への声掛けや日常の相談なども行い、地域の皆さんとゆるやかにつながる施設とします。

近隣に子ども・子育てプラザ等がない地域では、乳幼児親子が予約なしに気軽に利用できるスペースである乳幼児室を設置します。

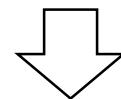
■コミュニティふらっとの設置に至った経緯

○区立施設再編整備計画に基づく区民集会所やゆうゆう館等のコミュニティふらっとへの再編

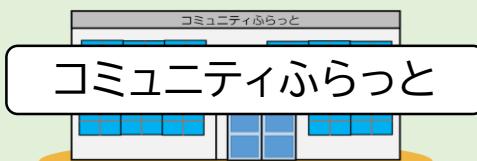


施設や部屋、時間帯によって、稼働率にばらつきがあり、施設全体で見ると、平均稼働率は50%程度にとどまっている。

・地域社会との関係の希薄化
・「社会的孤立」が問題に



世代を超えた地域住民同士のつながりや支えあいが求められている。



施設の有効活用や世代を超えた地域住民同士のつながりを促進する観点から、新たな地域コミュニティ施設である「コミュニティふらっと」へと再編整備する取組を進めてきました。

※現在までに、阿佐谷、東原、馬橋、永福、成田、方南、本天沼の7施設を開設。

今後、新たに1施設が開設する予定(高円寺南)。

■コミュニティふらっとにおける高齢者団体優先枠とは

- ゆうゆう館を利用している団体の活動場所を確保することができるよう、一部の部屋・時間帯に「高齢者団体優先枠」を設け、一般利用者に先駆けて申し込みができる仕組みとしています。
- 1団体当たり月に8枠(2部屋を一体使用する場合は2枠という扱い)までは使用料を免除します。
- 「高齢者団体優先枠」を振らない部屋・時間帯も設けることにより、一般利用者とのタイムシェアを図っています。

■高齢者団体優先枠のイメージ

	午前 (9時～12時)	延長	午後1 (13時～15時)	延長	午後2 (16時～18時)	延長	夜間 (19時～21時)
部屋A	優先枠		優先枠		優先枠		優先枠
部屋B	優先枠		優先枠		優先枠		
部屋C							
部屋D							

埋まらなかった枠は、一般利用者の枠になります。

このほか、「高齢者団体優先枠」の申込等は施設の窓口で受け付けることや、半期ごとに抽選申込を行うことなど、ゆうゆう館の運用方法を一部引き継いでいます。

■ゆうゆう館からコミュニティふらっとへ移行した団体数

施設名	団体数	移行した団体数	割合
ゆうゆう阿佐谷館 →コミュニティふらっと阿佐谷	105	92	87.6%
ゆうゆう阿佐谷北館 →コミュニティふらっと東原	30	27	90.0%
ゆうゆう馬橋館 →コミュニティふらっと馬橋	25	25	100%
ゆうゆう浜田山館 →コミュニティふらっと成田	29	18	62.1%
ゆうゆう方南館 →コミュニティふらっと方南	27	26	96.3%
ゆうゆう天沼館 →コミュニティふらっと本天沼	43	38	88.4%
合計	259	226	87.3%

移行しなかった理由として、「コミュニティふらっとが利用していたゆうゆう館より遠くなった」、「団体のメンバーの高齢化等により、このまま活動することが難しくなっていたので、これを機会に活動をやめた」、「コミュニティふらっとの部屋がゆうゆう館より狭くなり、活動できなくなった」などの声をいただいています。

現在の施設配置と施設ごとの建替時に生じる主な課題

B

■宮前図書館

- 現地改築する場合、建築上の法令に基づき延床面積を小さくする必要があります。

(現在)1,974㎡

- (更新後)併設施設の有無や組み合わせにより1,000~1,600㎡程度
また、約3年間の休館が必要です。

■さざんかステップアップ教室 「宮前教室」

- 事業の性質上、通室する児童・生徒に配慮が必要です。
- 他施設と併設する場合には、他施設の利用者との動線を分ける必要があります。

C

■大宮前保育園

■ゆうゆう大宮前館

- 老朽化が進んでおり、保育園の仮設用地や高齢者の活動場所を適切に確保しつつ、速やかに建て替えていく必要があります。
- 大宮前保育園を改築する場合、バリアフリーに配慮した設備や、障害児保育のための諸室等を整備をする必要があります、現在よりも延床面積が増加します。
(現在)331㎡→(更新後)900㎡程度
- ゆうゆう大宮前館は、現在と同じ場所に整備することができないため、高齢者の活動の機会を確保する観点から検討する必要があります。
- 大宮前保育園は、工事期間中に仮設園舎を建設するための代替場所の確保が必要です。



A

■西宮中学校

- 校舎には必要な諸室や機能を備えた上で、一定程度の広さの校庭が必要です。
- 学校と他施設と併設する場合は、動線を分けるなど、安全・安心に配慮した施設計画が必要です。

D

■宮前児童館

- 児童館再編の今後の方向性については、現在検討中の「(仮称)杉並区子どもの居場所づくり基本方針」で明らかにしていくこととしているため、仮にこれまでと同様の機能を確保していくことを前提として建て替える場合の課題を以下のとおりお伝えしています。
- 現地改築の場合、一般来館は休館となりますが、学童クラブの代替場所の確保が必要です。

情報共有・土台づくりにおいて参加者からいただいた主な意見

各対象施設が目指す姿や、建替え時に生じる課題についての区からの説明を受けて、良いと思った点・疑問点などについてグループで共有するワークを行いました。各施設のポイント毎の主な意見は以下のとおりでした。

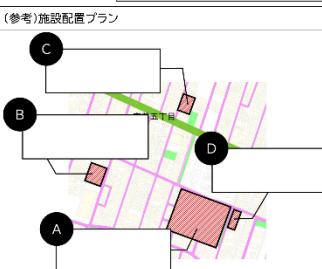
施設名	ポイント	主な意見
西宮中学校	ビジョン	・地域に開かれた「学びのプラットフォーム」という考え方は良い
	コスト	・地下構造はコストがかかる
	校庭	・校庭面積の確保を確実に
	単独・併設(複合化)	・教育環境の充実から、学校単独で建てられると良いが、その場合でも地域に開いていく仕組みが必要 ・学校の面積を十分に確保できるのであれば他施設との併設(複合化)の可能性もある ・誰でも入れる施設だと防犯面に不安が残るため、動線を分けることは必須
宮前図書館	ビジョン	・図書の貸出・返却だけでなく、地域のネットワークの拠点となっていることが望ましい
	期待する機能	・読書室や勉強スペースを確保してほしい ・カフェなどの交流スペースがほしい
	休館	・よい施設ができるのであれば休館はやむを得ない ・代替があれば休館してもよい
さざんかステップアップ教室「宮前教室」	併設(複合化)	・必要に応じて交流できるような施設と併設(複合化)できると良いのではないかと
大宮前保育園	仮設用地	・建替え工事中の代替場所は、現園舎の近くが望ましいのでは
集会施設(ゆうゆう館・コミュニティふらっとの説明を受けて)	期待する機能	・高齢化社会に向けてシニアの為の場所が縮小するのは反対 ・一方で、コミュニティふらっとであればゆうゆう館の機能を包含できるのではないかと ・中高生の居場所が少ないため、コミュニティふらっとの活用が期待できる
	有効活用	・ゆうゆう館では空いている夜間帯の有効活用が出来ると良い ・若い人たちも集まりやすい施設になると良い
宮前児童館	対象者	・児童館は小学生がメインで中高生はあまり使わない
	学童クラブ	・高井戸第二小学校の学童クラブを増築し、宮前児童館の学童クラブを編入できないかと

具体的な取組案の検討

参加者の意見に基づいたプラン作成①

ワークショップの中で話し合ってきた対象施設を取り巻く状況や建替え時に生じる課題などを踏まえ、第3回では、各自がワークシートを用いながら「施設の配置で『大切にしたいこと』とその理由」を考え意見交換を行いました。皆さんの意見から以下のキーワードを抽出しました。

ワークシート▶

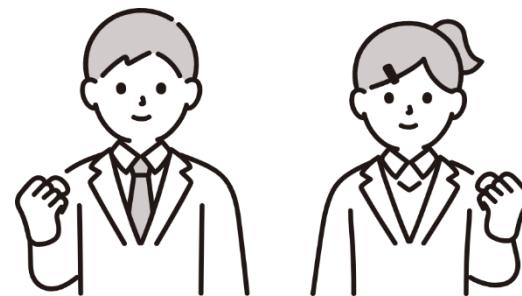
ワークシート	
施設の配置で「大切にしたいこと」とその理由	(参考)施設配置プラン 
配置を考えるに当たって困ったこと 例:用地が足りず、「」をこのエリアに設置できなかった 高齢者専用施設が良いけど、他の年代の人が集まれる場がない 等	

key word

それぞれの年齢に応じた子どものための場

▶ 参考にした主な意見

- 中学校・保育園は未来をつくるための大切な教育・育成の場として充実させたい
- 子どもは地域で育てる
- それぞれの年代の子どもに適した居場所をつくる
- 中高生の居場所をつくる
- 子どもの安心・安全
- 多様な教育に対応できる学習環境



key word

多世代との交流

▶ 参考にした主な意見

- 多世代が交流できる
- 多くの人生きがいを感じられる地域にしたい
- 地域で交流できる場を
- 個々の活動の場を大事にし、つながりが持てる場所を
- 地域の拠点となる場を
- 高齢者・親・子どもが交流できる場所をつくる
- 多世代利用を高める楽しい交流空間を



参加者の意見に基づいたプラン作成②

「中学生の学びの場を第一に」考え、「学校教育に必要となる諸室や機能の充実」「現在と同等以上の校庭の確保」を前提に2つのキーワードから中学校用地(A)を軸に、大きく3つのワークショッププランを作成しました。

プラン① 中学校用地を学びの拠点に

●中学校を単独施設として整備します

教育環境のより一層の充実や学校を区民誰もが学び合い、教え合うことができる場としていくことができます。一方で、このプランの場合ラウンジ等を備えた一定規模の集会施設を整備した場合には、対象地域内に全ての施設を配置することができなくなります。

【参考にした主な意見】

- 中学校単独で建てられると良い
- 中学校が単独改築となった場合でも、地域への開放は進められると良い

	A用地	B用地	C用地	D用地
プラン①-1	中学校	図書館+児童館	保育園	集会施設(ゆうゆう館)+さざんか
プラン①-2	中学校	図書館+集会施設(ゆうゆう館orコミふら)	保育園	児童館

プラン② 中学校用地を地域の多世代交流の中心に

●中学校に集会施設を併設して整備します

中学生と多世代の交流・活動が期待できます。また、生徒数の増減に応じて、余裕教室を集会施設として活用する、集会施設を教育活動に活用する等、将来の状況の変化に応じた転用が比較的行いやすいと考えています。

【参考にした主な意見】

- 子どもと高齢者など、多世代が交わる機会が学校にあると良い
- 生徒数の減少は必至で、その時に学校部分を柔軟に活用できると良い

	A用地	B用地	C用地	D用地
プラン②	中学校+集会施設(ゆうゆう館orコミふら)	図書館+さざんか	保育園	児童館

プラン③ 中学校用地を地域の子どもたちの学びと活動の拠点に

●中学校に児童館を併設して整備します

児童館併設の中学校を、地域の子どもたちの学びと活動の拠点とすることができます。対象地域内においては、多世代が交流し活動できる集会施設を単独施設又は図書館との併設によって設けることができます。

【参考にした主な意見】

- 中学生・小学校高学年の子どもが集う場所・時間が欲しい
- どちらも子どもが使う施設の西宮中と児童館を併設するのはどうか

	A用地	B用地	C用地	D用地
プラン③-1	中学校+児童館	図書館	保育園	集会施設(ゆうゆう館)+さざんか
プラン③-2	中学校+児童館	図書館+さざんか	保育園	集会施設(ゆうゆう館orコミふら)
プラン③-3	中学校+児童館	図書館+集会施設(ゆうゆう館orコミふら)	保育園	さざんか

ワークショッププランの作成に当たっての基本的な考え方

ワークショッププランは以下の考えに基づき作成しました。

なお、改築時期等については、以下の考えを変更することやスケジュールの精査等により、数年程度前後する可能性があります。

施設名	考え方
ゆうゆう大宮前館	<ul style="list-style-type: none">○高齢者の活動場所は移転するものの、集会施設を対象地域内に確保し、休止期間無く活動が継続できるようにしています。○整備する集会施設が小規模(300㎡程度)の場合は、現行のゆうゆう館と規模が同等のため、ゆうゆう館とすることを想定しています。
さざんか ステップアップ教室 「宮前教室」	<ul style="list-style-type: none">○現在の用地で改築する場合は対象地域ではない場所に仮移転して工事を進めます。また、別の用地に移転する場合は仮移転せずに、新しい建物が完成次第移転します。
宮前図書館	<ul style="list-style-type: none">○概ね3年程度休館します。休館中の対応(近隣図書館の利用促進や代替事業の実施可否等)について検討していきます。
宮前児童館	<ul style="list-style-type: none">○プラン①-2、プラン②は概ね3年程度休館し、プラン①-1は5年程度休館します。休館期間中の学童クラブの代替場所について検討していきます。なお、プラン③は休館期間はありません。
大宮前保育園	<ul style="list-style-type: none">○仮移転先は、現在の在園児卒園後に工事に着手することを踏まえて、遊び場119番(直線約1.6km先。現在地から徒歩約24分)とすることを基本に作成しています。

具体的なプランの検討の手法

区が作成した複数のプランに対して、第4回・第5回では、以下のとおり具体的なプランの検討を行いました。

■第4回

第3回のワークショップで、「施設の配置で『大切にしたいこと』とその理由」を考えるワークを行い、参加者の皆さんから意見の多かった内容をキーワードとして抽出しました。このキーワードと、第2回・第3回のワークショップで区から説明した各施設毎の課題等に対する意見を踏まえ、区が複数のワークショッププランを作成しました。

第4回では、各プランの概要やメリット・留意点を区が説明し、良いと思った点・疑問点・改善点についてグループで意見交換を行いました。



■第5回

第4回での意見及び第4回から第5回までの間に行われた地域意見交換会(オープンハウス)や各施設の意見交換会等での意見をご紹介しました。

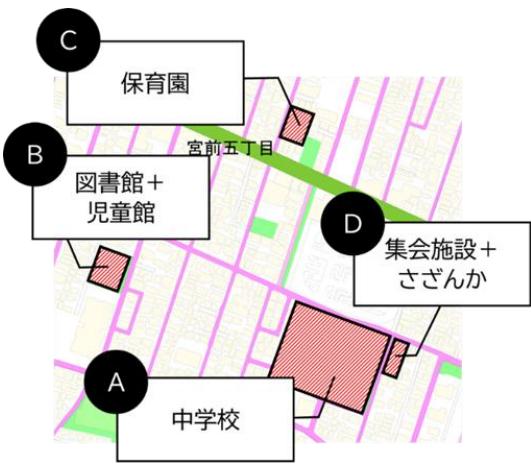
そして、第4回や地域意見交換会等における意見等を踏まえ、プランの方向性をお示しし、プラン①-2とプラン②のそれぞれのプランを進めていくことを想定した際に「期待することとその理由」、「進める上で留意してほしいこと」について、ワークシートを用いてグループで意見交換を行いました。また、最後には、全5回のワークショップを通じた感想等を一人ずつ発表しました。

ワークシート	
※文字は大きくお書きください	
プラン① 2	プラン②
○期待すること	○期待すること
○その理由は?	○その理由は?
○進める上で留意してほしいことは?	○進める上で留意してほしいことは?

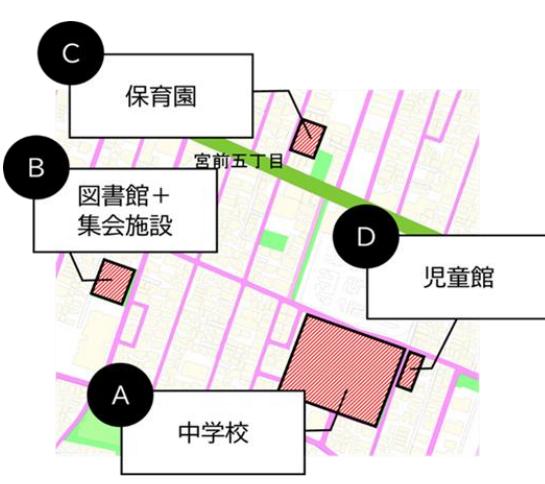


▲ワークシート

プラン①-1 概要

配置	内容	
	<p>●<u>中学校を単独施設として整備します</u></p> <p>○<u>図書館</u>: (想定面積)1,000㎡程度(現在比900㎡程度減少) (併設施設)児童館</p> <p>○<u>集会施設</u>: (想定面積)300㎡程度(ゆうゆう館) (併設施設)さざんかステップアップ教室</p>	
	A	中学校(7,400㎡+校庭4,600㎡)
	B	図書館(1,000㎡)+ 児童館(450㎡)
	C	保育園(900㎡+園庭300㎡)
	D	集会施設(ゆうゆう館。300㎡)+ さざんか(300㎡)
メリット		
<p>○<u>中学校</u> 現行と同等以上の校庭面積を確保することができます。</p> <p>○<u>図書館</u> 児童館を利用する子どもたちが図書館の蔵書や調べ学習ができるスペースを活用しやすくする設えとすることで、図書館のリソースを活かした子どもの居場所づくりが期待できます。また、これらの取組により子ども世代からの図書館利用の促進にも繋げることが期待できます。</p> <p>○<u>さざんか</u> 集会施設を活用したプログラムを実施できる可能性があります。また、児童生徒によっては、集会施設(ゆうゆう館)の利用者との交流が期待できます。</p> <p>○<u>児童館</u> ・図書館の静かなスペースと児童館の活発な遊びの場を組み合わせることで、子どもたちにとって過ごしやすい多機能な環境が提供されるため、放課後や休日に子どもたちが安心して過ごせる居場所となることが期待できます。 ・図書館と児童館が併設されることで、共同イベントやプログラムが実施しやすくなり、子どもだけでなく親や高齢者など、多世代の利用者が集まりやすくなり、地域コミュニティの強化が期待できます。</p>		
留意点		
<p>○<u>図書館</u> 現在の容積率と児童館との併設を踏まえて延床面積を現在から900㎡程度減らす必要があり、共有スペース等のレイアウトの工夫が必要です。</p> <p>○<u>集会施設</u> 現在のゆうゆう館と同等の面積を確保できますが、ラウンジや多目的室を設置できない可能性があります。</p> <p>○<u>さざんか</u> 中学校に隣接することの影響を考慮する必要があります。</p> <p>○<u>児童館</u> ・工事期間中の5年程度一般来館は休館となります。また、その間、学童クラブは代替場所の確保が必要です。 ・ある程度の音が生じる施設であり、静かに図書館を利用希望する区民に向けて施設の防音・振動等の対策が必要です。 ・図書館利用者の妨げにならないように施設の配置や利用者の動線を配慮する必要があります。</p>		

プラン①-2 概要

配置	内容	
	<p>●中学校を単独施設として整備します</p> <p>○図書館:(想定面積)1,000㎡程度(現在比900㎡程度減少) (併設施設)集会施設</p> <p>○集会施設:(想定面積)600㎡程度(ゆうゆう館orコミュニティふらっと) (併設施設)図書館</p> <p>○さざんかステップアップ教室を設置できるスペースがないため、他のエリア(高井戸や久我山など)に整備するなど対応策の検討が必要です。</p>	
	A	中学校(7,400㎡+校庭4,600㎡)
	B	図書館(1,000㎡)+ 集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと。600㎡)
	C	保育園(900㎡+園庭300㎡)
	D	児童館(450㎡)

メリット

- 中学校
現行と同等以上の校庭を確保することができます。
- 図書館
面積としては現在より狭くなりますが、工夫次第で集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)との共有部分を有効活用することが可能です。
- 集会施設
 - ・集会室に加え、ラウンジ等を備えた一定規模の集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)を整備することができます。
 - ・図書館との併設により、スペースの有効活用が図られるほか、一体的な運用も可能と考えられます。
 - ・図書館と集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)を併設し、地域の活動・交流の場とすることができます。

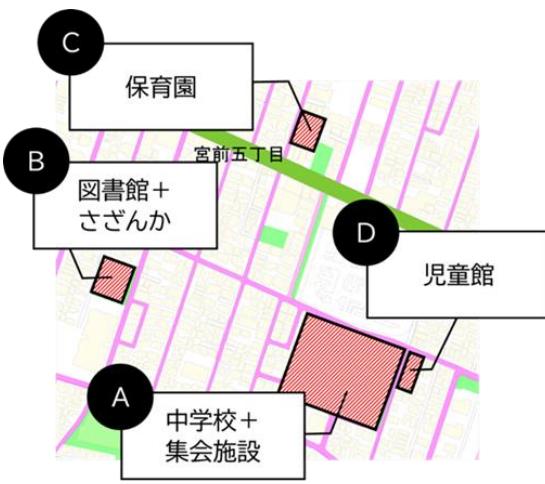
留意点

- 図書館
現在の容積率と集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)との併設を踏まえて延床面積を現在から900㎡程度減らす必要があり、共有スペース等のレイアウトの工夫が必要です。
- さざんか
地域内に配置できていないため、移転先の確保が課題となります。
- 児童館
工事期間中の3年程度一般来館は休館となります。また、その間、学童クラブは代替場所の確保が必要です。

プラン① 主な意見等

第4回での主な意見	第4回 意見の総括
<p>○学校単独だとセキュリティー面で安心</p> <p>○教育施設として充実させられる</p> <p>○面積の基準を満たせばOKではなく中学校は広々と使えるようにすべき</p> <p>●中学校以外の施設の併設について</p> <p>【プラン①-1】(B用地)図書館×児童館</p> <p>○児童館の子が図書館利用できるのが良い</p> <p>○セキュリティー面が心配</p> <p>○どちらも広さがとれない</p> <p>○図書館を静かに利用したい人もいるので別が良いと思う</p> <p>【プラン①-1】(D用地)さざんか×集会施設 (ゆうゆう館)</p> <p>○併設が良いのではないか</p> <p>○交流は期待できない</p> <p>【プラン①-2】(B用地)図書館×集会施設 (ゆうゆう館orコミュニティふらっと)</p> <p>○多くの世代が交流しやすい</p> <p>○共有利用もでき相性が良いのでは</p> <p>○図書館と集会施設を一体に使用できるのでは</p> <p>○音と広さに不安がある</p>	<p>□学校を単独で建てることについては、教育施設としての充実やセキュリティーの面から、肯定する意見が多くありました。</p> <p>□図書館と集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)の併設については、概ね交流スペースの有効活用に肯定的な意見が多くありました。</p> <p>□図書館と児童館の併設については、利用方法の違いから、相性が良くないと考える意見が多くありました。</p> <p>□さざんかと集会施設(ゆうゆう館)の併設については、併設が良いという意見がある一方、さざんかの特性から交流が期待できないという意見が見られました。</p>

プラン② 概要

配置	内容	
	<p>●<u>中学校に集会施設を併設して整備します</u></p> <p>○<u>図書館</u>: (想定面積)1,300㎡程度(現在比600㎡程度減少) (併設施設)さざんかステップアップ教室</p> <p>○<u>集会施設</u>: (想定面積)600㎡程度(ゆうゆう館orコミュニティふらっと) (併設施設)中学校</p>	
	A	<p>中学校(7,400㎡+校庭4,400㎡)+ 集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと。600㎡)</p>
	B	<p>図書館(1,300㎡)+ さざんか(300㎡)</p>
	C	<p>保育園(900㎡+園庭300㎡)</p>
	D	<p>児童館(450㎡)</p>

メリット

- 中学校:
 - ・地域の方々が学校活動に参加する、あるいは中学生が集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)のイベントに参加する等、中学生と地域の方々との交流・連携が期待できます。
 - ・生徒数の減少局面を迎えた場合には集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)を拡大する等、将来に向けた施設の転用を比較的行いやすいと考えています。
 - ・生徒数の増減に応じて、余裕教室を集会施設として活用する、集会施設を教育活動に活用する等、将来の状況の変化に応じた転用が比較的行いやすいと考えています。
- 集会施設
集会室に加え、ラウンジ等を備えた一定規模の集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)を整備することができます。
- さざんか
現在と同様に、図書館利用者との交流が期待できるとともに、読書の習慣が身に付く等、通室する児童生徒の学びについてメリットがあります。
- その他
図書館、さざんかステップアップ教室、保育園、児童館は現地改築となり、これまでの施設配置との差異は最小限に留められます。

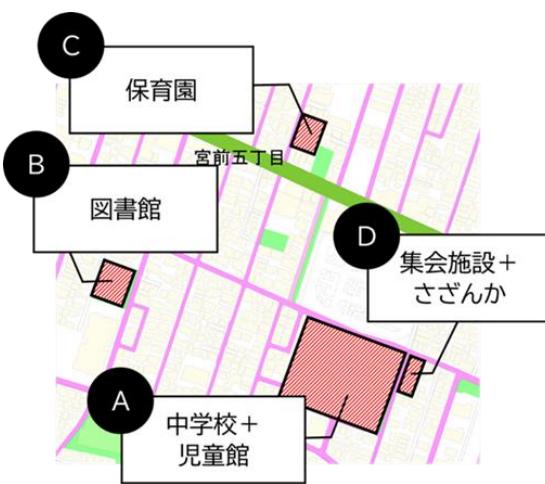
留意点

- 中学校
現状と同等程度の校庭は確保できる見込みですが、単独改築よりは若干狭くなります。
- 図書館
現在の容積率とさざんかステップアップ教室の併設を踏まえて延床面積を現在から600㎡程度減らす必要があり、共有スペース等のレイアウトの工夫が必要です。
- 集会施設
設計に際しては、生徒のプライバシー保護の観点に留意する必要があります。
- さざんか
工事期間中の仮移転先の確保が課題となります。
- 児童館
工事期間中の3年程度一般来館は休館となります。また、その間、学童クラブは代替場所の確保が必要です。

プラン② 主な意見等

第4回での主な意見	第4回 意見の総括
<ul style="list-style-type: none"> ○校庭を少し狭くするだけで多世代型の集会施設を建設できるのは良いと思う ○学校の教室が確保できた上で集会施設と併設するのであれば良い ○中学校と集会施設の交流・連携が期待できる ○既に中学校では地域との交流があるので集会施設との併設のメリットは要らない ○中学校と集会施設併設により多世代交流活動ができるとは思えない ○たまに交流する程度なら併設する必要なし ○中学校に全く別の施設を作るより多目的に利用できる部屋を確保する形が良い ○中学校と集会施設併設というよりゆくゆく切り離して転用できるデザインで建てるだけで良い ○生徒数減少に伴い施設の転用が行いやすいとは思えない ○生徒数が減少した場合は教育充実のため広々と使えば良い ○中学校と地域が相互に利用できる部屋があるのが良い ○併設するなら入口を一つにできる施設同士でない ○施設の場所が現在とあまり変わらないところがメリットだと思う ●中学校以外の施設の併設について (B用地)図書館×さざんか ○組み合わせが良いと思う ○共通性が考えにくい 	<ul style="list-style-type: none"> □中学校と集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)の交流・連携を期待する意見がある一方、既に交流があることや、中学校と集会施設の併設が直ちに多世代交流に繋がらないのではないかとといった意見がありました。 □また、学校として必要な諸室を確保した上で集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)と併設することに肯定的な意見がある一方、集会施設を併設するのではなく、中学校を単独で建て、中学校内に多目的に利用できる諸室を設ける、ゆくゆくは転用できるように設計する等、他施設の併設にこだわらない意見もありました。

プラン③-1 概要

配置	内容	
	<p>●<u>中学校に児童館を併設して整備します</u></p> <p>○図書館: (想定面積)1,600㎡程度(現在比300㎡程度減少) (併設施設)なし(単独)</p> <p>○集会施設: (想定面積)300㎡程度(ゆうゆう館) (併設施設)さざんかステップアップ教室</p>	
	A	中学校(7,400㎡+校庭4,400㎡) +宮前児童館(450㎡)
	B	図書館(1,600㎡)
	C	保育園(900㎡+園庭300㎡)
	D	集会施設(ゆうゆう館。300㎡) +さざんか(300㎡)

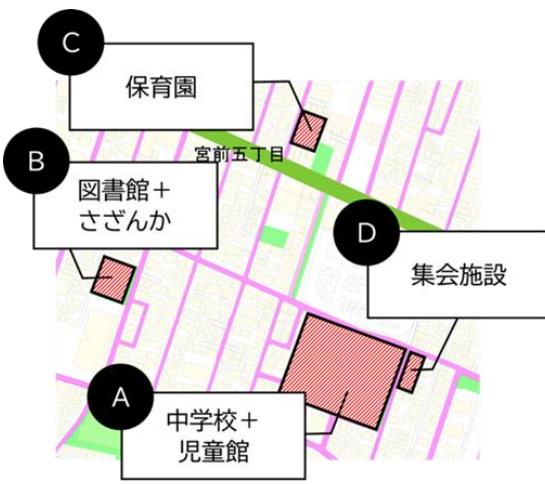
メリット

- 中学校
運用の工夫により、中学生と児童館(学童クラブ)の子どもたちの交流が期待できます。また、中一ギャップの解消等につながる可能性があります。
- さざんか
集会施設を活用したプログラムを実施できる可能性があります。また、児童生徒によっては、集会施設(ゆうゆう館)の利用者との交流が期待できます。
- 児童館
 - ・児童館(学童クラブを含む)は、休館期間なく改築できます。
 - ・児童館が中学校と併設になるため、中学生の利用増加が見込まれ、これに伴う高校生の利用増加も期待できます。これにより、中・高校生世代の利用増加により、現行の児童館以上に異年齢の子どもたちの交流の促進が期待できます。

留意点

- 中学校
現状と同等程度の校庭は確保できる見込みですが、単独改築よりは若干狭くなります。
- 図書館
単独施設であるものの、現在の容積率を踏まえて延床面積を300㎡程度減らす必要があり、共有スペース等のレイアウトの工夫が必要です。
- 集会施設
現在のゆうゆう館と同等の面積を確保できますが、ラウンジや多目的室を設置できない可能性があります。
- さざんか
中学校に隣接することの影響を考慮する必要があります。
- 児童館
中学校の授業などの妨げにならないように施設の配置や利用者の動線に配慮する必要があります。

プラン③-2 概要

配置	内容	
	<p>●中学校に児童館を併設して整備します</p> <p>○図書館: (想定面積)1,300㎡程度(現在比600㎡程度減少) (併設施設)さざんかステップアップ教室</p> <p>○集会施設: (想定面積)600㎡程度(ゆうゆう館orコミュニティふらっと) (併設施設)なし(単独)</p>	
	A	中学校(7,400㎡+校庭4,400㎡)+宮前児童館(450㎡)
	B	図書館(1,300㎡)+さざんか(300㎡)
	C	保育園(900㎡+園庭300㎡)
	D	集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと。600㎡)

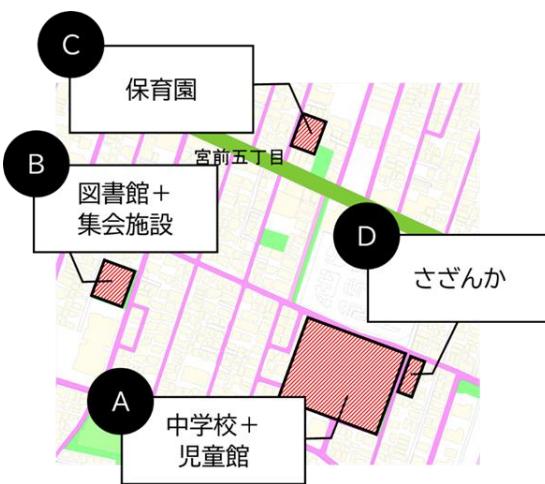
メリット

- 中学校
運用の工夫により、中学生と児童館(学童クラブ)の子どもたちの交流が期待できます。また、中一ギャップの解消等につながる可能性があります。
- 集会施設
集会室に加え、ラウンジ等を備えた一定規模の集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)を整備することができます。
- さざんか
現在と同様に、図書館利用者との交流が期待できるとともに、読書の習慣が身に着く等、通室する児童生徒の学びについてメリットがあります。
- 児童館
 - ・児童館(学童クラブを含む)は、休館期間なく改築できます。
 - ・児童館が中学校と併設になるため、中学生の利用増加が見込まれ、これに伴う高校生の利用増加も期待できます。
 - ・中・高校生世代の利用増加により、現行の児童館以上に異年齢の子どもの交流の促進が期待できます。

留意点

- 中学校
現状と同等程度の校庭は確保できる見込みですが、単独改築よりは若干狭くなります。
- 図書館
現在の容積率とさざんかステップアップ教室の併設を踏まえて延床面積を現在から600㎡程度減らす必要があり、共有スペース等のレイアウトの工夫が必要です。
- さざんか
工事期間中の仮移転先の確保が課題となります。
- 児童館
中学校の授業などの妨げにならないように施設の配置や利用者の動線に配慮する必要があります。

プラン③-3 概要

配置	内容	
	<p>●中学校に児童館を併設して整備します</p> <p>○図書館: (想定面積)1,000㎡程度(現在比900㎡程度減少) (併設施設)集会施設</p> <p>○集会施設: (想定面積)600㎡程度(ゆうゆう館orコミュニティふらっと) (併設施設)図書館</p> <p>○さざんかステップアップ教室は、中学校の隣接地に単独で設置しますが、容積率等から300㎡程度^の他施設を併設する余裕があります。</p>	
	A	中学校(7,400㎡+校庭4,400㎡)+宮前児童館(450㎡)
	B	図書館(1,000㎡) +集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと。600㎡)
	C	保育園(900㎡+園庭300㎡)
	D	さざんか(300㎡)
メリット		
<p>○中学校 運用の工夫により、中学生と児童館(学童クラブ)の子どもたちの交流が期待できます。また、中一ギャップの解消等につながる可能性があります。</p> <p>○図書館 面積としては、区立図書館の中でも狭い方になりますが、集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)との共有部分の工夫次第で有効活用することが可能です。</p> <p>○集会施設 ・集会室に加え、ラウンジ等を備えた一定規模の集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)を整備することができます。また、図書館との併設により、スペースの有効活用が図られるほか、一体的な運用も可能と考えられます。 ・図書館と集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)を併設し、地域の活動・交流の場とすることができます。</p> <p>○児童館 ・児童館(学童クラブを含む)は、休館期間なく改築できます。 ・児童館が中学校と併設になるため、中学生の利用増加が見込まれ、これに伴う高校生の利用増加も期待できます。 ・中・高校生世代の利用増加により、現行の児童館以上に異年齢の子どもたちの交流の促進が期待できます。</p>		
留意点		
<p>○中学校 校庭は現状と同等程度の校庭は確保できる見込みですが、単独改築よりは若干狭くなります。</p> <p>○図書館 現在の容積率と集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)との併設を踏まえて延床面積を現在から900㎡程度減らす必要があり、集会施設との共有スペース等のレイアウトの工夫が必要です。</p> <p>○さざんか 中学校に隣接することの影響を考慮する必要があります。</p> <p>○児童館 中学校の授業などの妨げにならないように施設の配置や利用者の動線を配慮する必要があります。</p>		

プラン③ 主な意見等

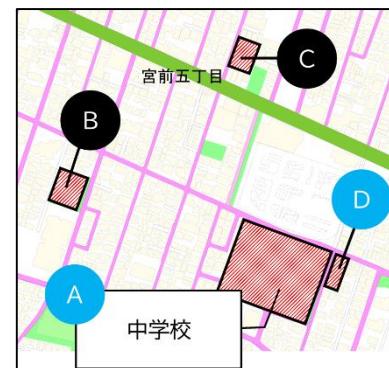
第4回での主な意見	第4回 意見の総括
<p>○中学校と児童館の併設による交流のイメージが湧かない</p> <p>○学校として小中連携を強化すれば良い</p> <p>○児童館との併設は騒音などの点において中学校の授業に支障が出るのではないか</p> <p>○幼児・小学生と中学生が安全に利用できる広さが必要</p> <p>○児童館に来る年代と中学校は違う</p> <p>○中一ギャップの解消は難しいのでは</p> <p>●中学校以外の施設の併設について</p> <p>【プラン③-1】(D用地)さざんか×集会施設 (ゆうゆう館)</p> <p>○併設が良いのではないか</p> <p>○交流は期待できない</p> <p>【プラン③-2】(B用地)図書館×さざんか</p> <p>○組み合わせが良いと思う</p> <p>○共通性が考えにくい</p> <p>【プラン③-3】(B用地)図書館×集会施設 (ゆうゆう館orコミュニティふらっと)</p> <p>○多くの世代が交流しやすい</p> <p>○共有利用もでき相性が良いのでは</p> <p>○図書館と集会施設を一体に使用できるのでは</p> <p>○音と広さに不安がある</p>	<p>□中学校と児童館の併設については、運営や校庭の利用、児童館利用の年齢層から、相性が良くないと考える意見が多数寄せられました。</p> <p>□さざんかと集会施設(ゆうゆう館)の併設については、併設が良いという意見がある一方、さざんかの特性から交流が期待できないという意見が見られました。</p> <p>□図書館と集会施設(ゆうゆう館orコミュニティふらっと)の併設については、概ね交流スペースの有効活用に肯定的な意見が多くありました。</p>

第5回で示したプランの方向性

第4回や地域意見交換会等における意見等から、下記のとおりプランの方向性をお示しました。

■ポイント① さざんかステップアップ教室の配置

第4回や地域意見交換会等の意見で、日常的に中学校の様子が見えることが通所児童・生徒の精神的な負担となる恐れがある等、中学校に隣接するD用地にさざんかステップアップ教室を配置することへの懸念が多く挙げられました。また、各さざんかステップアップ教室によって特色がある中で、学校と近接する環境は天沼教室(天沼中学校と併設)と重なることから、児童・生徒の選択肢を狭めてしまうことも懸念されます。



	A用地		B用地		C用地	D用地	
プラン①-1	中学校	—	図書館	児童館	保育園	集会施設	さざんか教室
プラン①-2	中学校	—	図書館	集会施設	保育園	児童館	—
プラン②	中学校	集会施設	図書館	さざんか教室	保育園	児童館	—
プラン③-1	中学校	児童館	図書館	—	保育園	集会施設	さざんか教室
プラン③-2	中学校	児童館	図書館	さざんか教室	保育園	集会施設	—
プラン③-3	中学校	児童館	図書館	集会施設	保育園	さざんか教室	—

■ポイント② さざんかステップアップ教室の配置

第4回や地域意見交換会等の意見で、プラン①-2・プラン②に関しては賛同する意見があったものの、プラン③-2については、中学校と児童館の併設について相性が良くないのではという意見が多く、賛同する意見が見られませんでした。

プラン①-2	プラン②	プラン③-2
<ul style="list-style-type: none"> ○学校を単独で建てることについては、教育施設としての充実やセキュリティーの面から、肯定する意見が多くありました。 ○図書館と集会施設(ゆうゆう館or コミふら)の併設については、共有スペースの有効活用に概ね肯定的な意見が多くありました。 ○さざんか教室を地域内に配置できないことについては、地域内への設置を望む意見が多くありましたが、地域外への設置を容認する意見もありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校と集会施設(ゆうゆう館or コミふら)の交流・連携を期待する意見がある一方、既に交流があることや、中学校と集会施設の併設が直ちに多世代交流に繋がらないのではないかといった意見がありました。 ○また、学校として必要な諸室を確保した上で集会施設(ゆうゆう館or コミふら)と併設することに肯定的な意見がある一方、中学校に地域が活用できる諸室を設ける、あるいは将来的に転用できるように設計する等、集会施設との併設にこだわらないといった意見もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校と児童館の併設については、交流のイメージが湧きにくい、校庭の利用や運用面等の課題がある等、相性が良くないのではないかという意見が多くありました。

⇒ 上記のポイントを踏まえ、第5回ではプラン①-2とプラン②に焦点を当てて、それぞれの「期待することとその理由」・「進める上で留意してほしいこと」をグループ内で情報共有するワークを行いました。

第5回の主な意見等

	主な意見	意見の総括
プラン ①ー2	<ul style="list-style-type: none"> ○セキュリティが確保できることが良い ○学校施設として十分なスペースを確保してほしい ○校庭を出来るだけ広く確保してほしい ○地域に開かれた学校として施設を配置し、地域の人が利用できるようにする ○体育館や音楽室等の設備の整った公共施設は少ないので、一般に開放してほしい ○図書館と集会施設の組合せの建物が地域に欲しい ○集会施設+図書館は利用目的が一致することが多いので、相互活用の有効性が大きい ○さざんかはできれば地域内に設置した方が良いと思う ○さざんかは区内の同様の施設の場所のバランスを考え最適な場所を選んでほしい 	<ul style="list-style-type: none"> □中学校を単独で建てることに期待される要素として、セキュリティの確保・学校施設として十分なスペース・校庭の広さを挙げる意見が多数見られました。 □中学校を単独で建てても、地域に開いていくことを望む意見は第4回に引き続き見られました。 □図書館+集会施設の組合せについて、評価する意見が第4回に引き続き多数見られました。 □第4回ではさざんかステップアップ教室を地域内に配置すべきという意見と地域外に配置することを許容する意見の双方が見られましたが、第5回では地域内に配置すべきという意見が多数見られました。
プラン ②	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校・保育園・児童館・図書館・さざんか・集会施設の全てを配置するには、この案がベストと思う ○集会施設の運用次第では、中学校の現在の部屋不足の問題を解消できるのではないか ○生徒数増加や学びの変化が起きた時、集会施設を有効利用できると思う ○学校に集会施設を併設すれば学校としても学年集会等で使える ○集会施設は和室・防音室・料理室等備えれば学校にも借りるメリットがある ○動線や学校の安全性など十分に留意してほしい ○中学生とゆうゆう館利用者との時間帯が重なるのであれば一定の配慮が必要だと思う ○アンケート調査の結果から、図書館+さざんかが良いと思った ○さざんかの生徒が落ち着ける環境として静の環境を求めていると思うので、図書館との併設は良い 	<ul style="list-style-type: none"> □地域全体を見て対象施設の配置を考えた際に、プラン②が最適という意見が見られました。 □中学校のメリットとして、生徒数増加や学びの環境の変化が発生した際に集会施設を有効活用できる、集会施設を学年集会で使ったり、和室や防音室等を備えれば中学校も活用できるという意見がありました。 □動線や学校の安全性に十分留意してほしいという意見が多数見られました。 □さざんかステップアップ教室利用者アンケートの結果を踏まえ、図書館+さざんかの組合せを評価する意見が見られました。

また、この検討まとめの作成についてお伝えし、改めてこれまでのワークショッププランと主な意見について、意見が反映されているか、地域意見交換会等の意見を踏まえ考えに変化があるかなどを、グループワークで意見交換しました。下記のとおり、いずれのプランにも共通する意見がありました。

いずれのプランにも共通する主な意見

- 保育園の改築に伴う仮設園舎への移転については情報をきちんと公開し、これから入園する方が選択できるようにしてほしい
- 図書館の長期休館中、大人は他の図書館に行くことができるが、子ども(乳幼児)へのサービスはどうするのか。移動図書館など、代替サービスがあるとよい
- 宮前会議室が廃止されてから、地域で会議ができる場所がないので集会施設を確保したい

地域意見交換会等の開催

地域意見交換会等のスケジュール

ワークショップ参加者以外の方の意見を聞いていくため、第4回と第5回のために、対象施設の近隣住民等を対象とした意見聴取(ポスティング)を実施するとともに、地域意見交換会(オープンハウス形式)を開催しました。また、検討対象施設の利用者等に対しても、意見聴取を実施しました。

令和6年(2024年) 7月17日(土) ~8月2日(金)	さざんかステップアップ教室に関するアンケート 対 象:さざんかステップアップ教室通所児童・生徒、保護者
令和6年(2024年) 7月26日(金)	ゆうゆう大宮前館利用者との意見交換会 対 象:ゆうゆう大宮前館利用者
令和6年(2024年) 7月29日(月)	コミュニティふらっと永福見学 対 象:希望したワークショップ参加者
令和6年(2024年) 8月 3日(日)	地域意見交換会(オープンハウス形式) 対 象:検討対象施設の近隣にお住まいの方を中心とした区民等 周知方法:検討対象施設近隣へのポスティング、区ホームページ、広報 すぎなみ、区公式SNS
令和6年(2024年) 8月 8日(木) ~16日(金)	宮前図書館におけるパネル展示 対 象:宮前図書館利用者
令和6年(2024年) 8月21日(水)	大宮前保育園利用者との意見交換会(オープンハウス形式) 対 象:大宮前保育園の在園児保護者
令和6年(2024年) 8月20日(火) ~22日(木)	ゆうゆう大宮前館におけるパネル展示 対 象:ゆうゆう大宮前館利用者
随時	区公式ホームページにおける意見受付

コミュニティふらっと永福見学

○コミュニティふらっとについて、施設内の様子や実施している事業の内容等に関する説明を聞き、理解を深めることを目的に、ワークショップ参加者の中で希望した方を対象に、コミュニティふらっと永福の見学を実施しました。

○参加者の方から、以下のような感想をいただきました。

コミュニティふらっとが自分たちの地域でもできると良いと思う。

ラウンジで若い世代と高齢者の交流が上手くいくかは分からない。ゆうゆう館を使用している人にも使いやすい施設にしてほしい。

子どもたちの利用と、ゆうゆう大宮前館の機能継承を併存させるためにはどういった狙いが良いのか。

図書館とコミュニティふらっとの親和性に問題はなく、宮前でも検討価値があると思う。

宮前地区のゆうゆう館と利用方法が違うことが分かった。

「中高生の居場所」に視点を充てていて、子どもたちが勉強などしやすい環境になっていると感じた。

集会室の一部を高齢者優先で予約できるように、ゆうゆう館優先の機能を継続すれば、ゆうゆう館使用の方も良いと思う。

中高生の居場所づくりという取組を評価できる一方、大人やシニアの姿がなかった点が気になる。

地域意見交換会(オープンハウス形式)等でいただいた主な意見

○8月3日(土)に地域意見交換会(オープンハウス形式)を開催し、ワークショップに参加していない方からも、この取組に関してご意見をいただきました。

○また、地域意見交換会で展示・配布した資料を区の公式ホームページに掲載しウェブアンケートを実施したほか宮前図書館におけるパネル展示により、ご意見を募集しました。

○以上の意見募集の結果、以下のようなご意見をいただきました。

分類	意見
施設整備において、大事にしたいことや大切にすべき視点	杉並区の教育のあり方(ソフト部分)も考慮して西宮中改築をしてほしい。
	大人や子どもの利用目的に合った公的施設の充実が必要。
	全ての年代の方々の居場所となる施設が、適切に配置されることを希望。そのために仮施設や移転場所も遠すぎないことが望ましい。
	中学生までの子どもがのびのびと活動できる学校、街づくりが最も大切と考えます。
	一部の施設のみに地域外への移転などマイナスの要素が偏らないようお願いしたい。
	子どもの使用者視点で考える。
	中学校、児童館の施設は不使用时は広く開放する事を考えて、施設の活用頻度を高める。
	施設は複合的に使用できるようにすべきだと思う。施設を単独で活用するのではなく、多面的に活用する事を考えるべき。
プラン①	西宮中学校を単独施設として維持されている点が評価できます。
	学校は単独が環境として安心できる。
	中学校の校庭が、この中では1番広くとられている。
	中学校が単独で建てられても、地域への開放は進めてほしいです。
	図書館とコミュニティ施設が一緒だと施設を利用しつつ本も借りて帰れる利点がある。
	①-2は、図書館と集会施設が良い組合せだと思うが、さざんか教室のスペースをしっかりと作ってほしい。
	さざんか教室を遠方に移転して子どもたちに影響はないのか。
	さざんか教室が中学校に隣接しているのは好ましくない。さざんか教室の移転先が白紙であり、当てのない計画を立てることには反対する。
プラン②	中学校に何か他の施設を併設しなくてはいけない場合は、集会施設が適切かと思う。
	杉並区において「中学校+集会施設」の初めてのケースとして先頭を走って欲しい。
	多目的な部屋を多数確保することは震災救援所としての機能アップにも資すると思う。
	中学校に集会施設を併設することも少子化が進む中、将来的なスペース利用を考える上で有用である。併設することによる教育環境への悪影響の懸念は改築設計の工夫で払拭できると考える。
	現行の配置に比較的近いことが評価できる。
プラン③	児童館の休館期間がない。
	中学校と児童館の併設は少し違和感がある。
	中学生と児童館利用者の年齢や体格などに関きがあり過ぎて同じ施設内に同居することの弊害が懸念される。
	意見として書かれているように「児童館にくる年代と中学校は違う」というのは、その通りだと思います。交流のイメージは沸きません。
	③-1は、中学校とさざんか教室が近すぎる。

さざんかステップアップ教室に関するアンケート

○さざんかステップアップ教室の建替えに伴う意見聴取を目的に、さざんかステップアップ教室（区内4教室）に通所する児童・生徒とその保護者を対象に、アンケートを実施しました。

○その際に、今後施設の老朽化などで建替えや移転の対象となる可能性があることもお伝えし、その与条件についてもお伺いしました。

○以上の意見募集の結果、以下のようなご意見をいただきました。

回答者数:52名(うち児童・生徒:23名(44%)、保護者:29名(56%))

問 さざんか教室はどのような場所にあると良いと思いますか。 (複数回答可)	回答数 (%)	児童・ 生徒	保護者
最寄り駅から近いなど、通いやすいところ	36件 (69%)	15件	21件
学校から離れたところ	13件 (25%)	8件	5件
住宅街など、落ち着いた静かなところ	6件 (12%)	3件	3件
その他	8件 (15%)	5件	3件
○その他の主な内容 ・個人のニーズによるが、学校から離れた場所と学校内の離れた場所にそれぞれ設置して欲しい ・体育館が近いところ。			

問 さざんか教室との併設施設(同じ建物内にある施設)は、どのような施設がいいと思いますか。(複数回答可)	回答数 (%)	児童・ 生徒	保護者
図書館	29件 (56%)	10件	19件
ゆうゆう館、コミュニティーふらっとなどの、地域の方が使える集会施設	11件 (21%)	2件	9件
高齢者施設、障害者施設などの福祉施設	6件 (12%)	1件	5件
小中学校	4件 (8%)	3件	1件
保育園	4件 (8%)	3件	1件
児童館	4件 (8%)	3件	1件
その他	11件 (21%)	8件	3件
○その他の主な内容 ・特に併設施設がなくてもいい。 ・スポーツジムや屋上など、運動できる場所。			

ゆうゆう大宮前館利用者との意見交換会

○大宮前保育園を現園舎の敷地で改築する場合、保育園の延床面積が増加するため、併設するゆうゆう大宮前館を現在と同じ場所に整備することはできません。そのため、保育園の改築に当たっては、別途高齢者の活動場所の確保が必要となります。

○この検討にあたって、ゆうゆう大宮前館の利用者の方との意見交換会やゆうゆう大宮前館でのパネル展示を開催し、以下のような意見をいただきました。

この地域に集会施設がないため、集会施設ができるのは良い。

高齢者同士で話せる今のゆうゆう館の雰囲気が良い。

集会施設にゆうゆう館的要素を残せば良いと思う。

現在の立地はとても便利。場所が変わると不便に思う人も多くいると思う。

宮前地区に拠点となる施設がない。子どもからシニアまで集える施設ができると良いのでは。

区は高齢者の居場所を大切に考えてほしい。

今と近い場所に活動場所が欲しい。

ゆうゆう館を夜も有効に地域の人に使ってもらえれば良いのではないか。

大宮前保育園利用者の意見交換会(オープンハウス形式)

○大宮前保育園の保護者の方を対象に意見交換会(オープンハウス形式)を開催し、以下のような意見をいただきました。

○なお、大宮前保育園改築時の仮移転先は、現在の在園児卒園後に工事に着手することを踏まえて、遊び場119番(南荻窪図書館そば・旧宮前自転車集積所)とすることを基本に考えています。

仮移転先の位置を見ると遠く感じる。

在園中に仮園舎へ移転しないことが分かり、良かった。

もし自分が通うことになったら、行くことができない。

取組案(プラン)の決定

プランの決定に当たって重視したポイント①

今回、ワークショップ等を通じて、施設利用者や地域住民等の皆さんと共に解決策の検討を行ってきました。ワークショップ等での意見を踏まえ、プランを決定するに当たり、以下の視点を重視しました。

■地域の実情に応じた解決策

ワークショップをはじめ、地域意見交換会や施設利用者・運営事業者等との意見交換などを通じて、地域によって施設に対する考え方やニーズは様々であることが改めて明らかになりました。

このため、地域における区民ニーズはもとより、施設の設置状況や利用人数、稼働率などの基礎的な情報、アクセス面など利用者の利便性、また、敷地条件や施設を建て替えた場合の課題など、施設を取り巻く様々な状況や、この間、聴取してきた区民意見等を踏まえながら、地域の実情に応じた解決策を検討しました。

■誰もが使いやすい施設づくり

公共施設は区民共有の財産であるため、乳幼児親子を含む子どもから高齢者まで誰もが使いやすい施設となるよう、施設利用者や地域住民の視点を踏まえつつ、特定の施設利用者に不便が生じることがないように、地域全体・区全体を俯瞰して、施設の配置やあり方を考えました。

また、現在の区民のニーズに応じていくことはもちろんのこと、施設は将来世代の区民も利用するものであることから、将来世代のニーズや財政上の負担等も考慮しました。

加えて、施設の複合化や併設についても、単に施設・用地の有効活用を図るといった観点だけでなく、組み合わせる施設の相性や期待される相乗効果、新たな利用者の掘り起こしにつながるかなど利用者目線に立って検討しました。

■必要な機能・環境の確保

保育園におけるバリアフリー対応や障害児保育のための諸室等の整備、学校における多目的室や少人数教室等の確保など、保育環境や学校教育環境をはじめ図書館やさざんかステップアップ教室、ケア24などそれぞれの施設に必要な機能・環境はしっかりと確保していきます。

プランの決定に当たって重視したポイント②

■更なる高齢化の進展を見据えた集会施設の整備①

ワークショップ等を通じて、多世代型施設のコミュニティふらっとについて理解が進みつつあることは認識できましたが、一方で、高齢者福祉の視点が弱いのではないかという意見や、ゆうゆう館への愛着を示す意見もありました。また、ゆうゆう館であっても、多世代が使いやすい施設としていくことが重要といった意見もありました。

こうした点を踏まえ、集会施設については、更なる高齢化の進展を見据え、多くの元気な高齢者のいきがい・健康増進活動や、一人暮らし高齢者等の孤立防止に資する高齢者の居場所(家庭や職場ではない第三の居場所)を適切に提供していくため、ゆうゆう館・コミュニティふらっとという施設の位置づけにかかわらず、どちらであってもこれまで以上に高齢者の活動機会や利便性をしっかりと確保するとともに、多世代交流を含む、多様な活動の機会や活躍の場を適切に提供していくこととします。

このため、コミュニティふらっとにおいては、ゆうゆう館の機能を適切に継承するとともに、より多くの高齢者にとって利用しやすい施設となるよう、高齢者団体の優先枠や使用料の見直し(次頁参照)のほか、高齢者の健康増進や生きがい活動の支援等に寄与する事業の充実を図るなど、必要な関連規程の見直しも含めて、検討を進めます。

同様に、ゆうゆう館においても、高齢者団体が利用しない時間帯の有効活用策とともに、協働事業等を通してより多くの高齢者等が利用しやすい施設となるよう、世代間交流の促進をはじめ多様なニーズに応じた取組のより一層の充実に向けた対応策や多世代利用にも資する施設として必要な関連規程の見直しも含めて、検討を進めます。

プランの決定に当たって重視したポイント③

■更なる高齢化の進展を見据えた集会施設の整備②

●コミュニティふらっとに登録した高齢者団体の優先枠等の見直し案

項目	現状	見直し案
優先枠の申込み可能枠数(1団体当たり)	月8枠	月10枠
優先枠の申込み可能枠数を超えて利用する場合の使用料の取扱	有料	使用料免除 (枠数の上限なし)
団体登録していない他のコミュニティふらっとの空き枠(登録団体の利用抽選後の枠)の利用	不可	可能(使用料免除)
ゆうゆう館の空き枠(ゆうゆう館登録団体の利用抽選後の枠)の利用	不可	可能(使用料免除)

実施時期:優先枠の申込み可能枠数の見直しは、令和7年度(2025年度)下半期申込分から実施予定。その他の項目は、令和8年度(2026年度)上半期または下半期申込分から実施予定。

【コミュニティふらっとにおける高齢者団体優先枠とは】(現行制度)

- ゆうゆう館を利用していた団体の活動が継続できるよう、コミュニティふらっとの一部の部屋・時間帯に「高齢者団体優先枠」を設け、一般利用者に先駆けて申込みができる仕組みで、1団体当たり月8枠まで使用料は免除。
- 申込みができるのは、1つの団体につき、コミュニティふらっとのうち1施設まで。なお、コミュニティふらっとの「高齢者団体優先枠」に申込みをした団体は、ゆうゆう館の抽選会に参加できない。

●ゆうゆう館に登録した高齢者団体に関する見直し案

項目	現状	見直し案
コミュニティふらっとの空き枠(コミュニティふらっとに登録した高齢者団体の利用抽選後の枠)の利用	不可	可能(使用料免除)

実施時期:令和8年度(2026年度)上半期または下半期申込分から実施予定。

決定したプランの内容と決定する際のポイント

プラン内容【プラン②】



- ①西宮中学校を改築するとともに、新たに(仮称)コミュニティふらっと宮前を西宮中学校に併設します。ゆうゆう大宮前館は(仮称)コミュニティふらっと宮前に機能継承し、利用者の活動場所を確保します。
- ②宮前図書館とさざんかステップアップ教室宮前教室を現地改築し、引き続き併設します。
改築工事期間中、宮前図書館は休館し、さざんかステップアップ教室宮前教室旧富士見丘小学校に仮移転することを視野に検討します。
- ③大宮前保育園は現地改築し、バリアフリー対応や障害児保育に必要な諸室等の整備を行います。
改築工事期間中、遊び場119番(宮前二丁目、南荻窪図書館そば)に仮移転し運営を継続します。
- ④宮前児童館は現在の用地に存置します。

■プランを決定する上でのポイント

ワークショップで整理したキーワード「それぞれの年齢に応じた子どものための場」、「多世代との交流」を踏まえ、以下のポイントに基づきプランを決定しました。

- 中学生の学びの場を第一に考え、学校教育に必要となる諸室や機能の充実、現在と同等あるいは同等以上の校庭面積の確保を前提に、学びのプラットフォームとして地域の拠点となる開かれた学校として整備すること
- さざんかステップアップ教室「宮前教室」(以下、さざんか宮前教室という)に通室する児童・生徒の環境を適切に確保すること
- 図書館の延床面積減少による影響を最小限にとどめ、併設施設との相乗効果が期待できる施設とすること
- ゆうゆう大宮前館利用者の活動場所を確保すること
- 保育園の改築に当たり、園舎や園庭の必要面積を確保するとともに、園児・保護者への影響を考慮して移転時期を設定するなど、保育環境の維持・向上を図ること

プランを決定する際の考え方①

■西宮中学校の改築と集会施設の整備について①

- ワークショップでは、現行の西宮中学校の校庭は比較的狭く、より広い校庭を確保する必要があるという観点や、少人数、学年単位等、今求められている教育環境の充実やセキュリティの確保などの観点から、学校を単独施設として整備すべきという意見を多数いただきました。一方で、その場合であっても地域に開いていくという仕組みも必要であるといった意見や、学校の面積を十分に確保できるのであれば他の施設と併設していく可能性もあるのではないかといった意見もありました。
- 教育委員会では、「杉並区教育ビジョン2022推進計画」で示すとおり、学校等の教育施設を、区民が生涯にわたって豊かに学ぶことができる施設とするとともに、人が交わりつながる基盤となる「学びのプラットフォーム」として整備していくことを掲げています。また、学校施設の改築に当たっては、何よりも子どもたちのための教育施設であることを大切にした上で、地域の拠点となる開かれた学校として多くの区民の施設需要に応えるとともに、将来の児童・生徒数の減少を見据えた、柔軟性のある施設づくりが求められているという課題認識を持っており、その観点からも検討しました。
- 併設施設の検討に当たり、宮前地域には、多世代が利用できる集会施設がないことから、町会や防災防犯会、青少年育成委員会等は、さざんか宮前教室のオープンスペース等を、通室児童・生徒の帰宅後等、さざんか宮前教室として使用していない時間に会議等で利用していること、及び、大宮前保育園の改築に伴い、ゆうゆう大宮前館を現地に存置することができないことから、学校内に集会機能を設けることについて考えました。
- 中学校を単独改築した場合、中学校内に学校施設として複数の集会室を設けることが考えられますが、使用時間を学校が使わない夜間や休日に限定する場合は、日中の活動が中心となるゆうゆう館利用者の活動場所としての活用は困難となります。また、集会室の貸し出しや清掃等に伴う中学校の管理負担の増大や、集会室利用者が学校内に入ることによるセキュリティの確保が課題となります。さらに、集会室を貸し室使用することが中心になるため、集会施設の運営事業者が実施している各種講座や多世代交流イベントの実施等は困難となり、集会機能を設けることの効果は限定的となります。

プランを決定する際の考え方②

■西宮中学校の改築と集会施設の整備について②

- 次に、中学校に集会施設を併設した場合には、教育活動や部活動、地域ボランティアによる中学生向けの活動における活用や、災害発生時の震災救援所機能の向上等、施設が有効活用されるとともに、中学生や地域住民への幅広い相乗効果が見込まれます。また、中学校の管理負担の軽減や、集会施設の運営事業者によるイベント実施等が期待できるため、中学校を単独改築した場合と比べ、より一層、地域の拠点となる開かれた学校として整備することができます。また、対象地域の施設全体の配置を考えた場合、さざんか宮前教室について、後述の課題を踏まえた、対象エリア内かつ通室児童・生徒にとってメリットが多い図書館との併設施設として整備することができます。
- 以上のことから、中学校に集会施設を併設することとします。
- この集会施設では、ゆうゆう大宮前館を機能継承し、利用者の活動場所を確保していきませんが、前述のとおり、当該地域に多世代が利用できる集会施設が無いことや、中学生をはじめとした幅広い世代への効果が見込まれることを踏まえ、多世代型の集会施設「コミュニティふらっと」として整備し、地域の学びと交流の拠点となることを目指していきます。
- この場合において、ゆうゆう大宮前館は、西宮中学校及びコミュニティふらっとが開設されるまで存置されることから、改築工事期間中に仮移転をすることなく、活動を継続することができます。
- なお、学校教育に必要な諸室や機能の充実、現在と同等あるいは同等以上の校庭面積の確保については、中学校を単独改築した場合と同様に行っていきます。また、コミュニティふらっと利用者が中学校の区画に許可なく立ち入れないようにする、中学生のプライバシーに配慮して建物配置を工夫する等、ワークショップ等における懸念点は、令和7年度(2025年度)以降に実施する基本設計等に生かしていきます。

プランを決定する際の考え方③

■宮前図書館とさざんかステップアップ教室「宮前教室」について

- 現在の宮前図書館の延床面積は1,974㎡ですが、現行法では現在の敷地に1,691㎡以上の建物を建てることできないため、仮に図書館を単独改築した場合でも、延床面積を約300㎡縮小する必要があります。そのため、図書館の延床面積の減少による影響と他施設との併設による効果から検討を行いました。
- 宮前図書館と集会施設を複合化した場合には、図書館の延床面積は1,000㎡程度となり、現在と比べ半分程度の規模となります。一方で、図書館とコミュニティふらっとを複合化することにより、スペースの有効活用だけでなく多世代との交流や図書館と集会施設の一体利用等、様々な効果が期待でき、ワークショップ等の参加者からも支持する声もいただきました。
- 次に、現行と同様に、宮前図書館とさざんか宮前教室を併設した場合には、図書館の延床面積は約1,300㎡確保することができ、併設による縮小幅を最小限に抑えることができます。
- さざんかステップアップ教室は区内に4所設置していますが、各教室によって時間割や活動内容に特色があり、通室先や通室頻度、通室時間は本人の状態や希望に合わせて決めることができます。ワークショップでは、さざんか宮前教室を西宮中学校に隣接する地点(現在の宮前児童館用地)に配置するプランも検討しましたが、さざんか宮前教室に通室する児童・生徒の状況を踏まえ、日常的に中学校の様子が見えることで、通室児童・生徒への精神的な負担となる恐れがあり懸念する意見もありました。また、現在4所のうち2所(今後移転予定のものを含む)は学校と隣接した環境に設置しており、通室児童・生徒の状況に合わせた支援を行うという観点からも、様々な選択肢がある方が望ましいと考えます。なお、対象エリア外への移転についても検討しましたが、現在と同様の区南西部(井の頭線沿線)には、施設の規模や通室児童・生徒にとってのメリット等の観点から、現在よりも適地となる場所を見出すことはできませんでした。
- 一方で、現行どおり、さざんか宮前教室を図書館と併設した場合には、通室児童・生徒にとって、落ち着いた環境のもと学習や生活を行えることや、調べ学習など主体性を引き出す学習につなげやすいこと、職場体験の実施等、他者との交流や自己有用感を生むことができること等、単独施設あるいは他施設との併設では得られない様々な効果が見込まれます。また、さざんかステップアップ教室(4所)の通室児童・生徒や保護者にアンケート調査を行ったところ、図書館との併設を希望する意見が多数寄せられました。
- 以上のことから、宮前図書館とさざんかステップアップ教室「宮前教室」を併設施設として整備することとします。なお、さざんか宮前教室の改築工事期間中については、旧富士見丘小学校跡地への仮移転を視野に検討を進めていきます。

プランを決定する際の考え方④

■大宮前保育園について

○大宮前保育園は、改築に当たり、バリアフリーに配慮した設備や、障害児保育のための諸室等を整備する必要があることから、延床面積は現在よりも増加します。

○現在の敷地内に建てられる建物の大きさを再精査しましたが、保育園とゆうゆう館を含めた他の施設を併設することは不可能であったことから、大宮前保育園は現地で単独施設として改築することとしました。

○なお、改築工事期間中も運営を継続するため、遊び場119番(宮前二丁目・南荻窪図書館そば)に仮設園舎を整備し、仮移転することとしますが、現在の園舎から直線距離で約1.6kmあることから、現在の在園児とその保護者への影響等を考慮し、令和13年度(2031年度)の移転を予定しています。

■宮前児童館について

○区立児童館については、令和6年度(2024年度)に策定する杉並区子どもの居場所づくり基本方針(案)に基づき、すべての児童館を存置することに伴い、当面、現在地で運営していきます。